

令和 7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100136	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ横浜岸谷		
所在地	(〒230-0078) 神奈川県横浜市鶴見区岸谷1-10-27		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	令和7年8月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年10月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は生麦駅より徒歩6分とアクセスが良く、ご家族やご友人の面会にご好評頂いております。

また、近隣の自治会館でのイベント参加・近隣の方々によるボランティアイベント等、地域との交流も積極的に行っております。

特に区内のボランティアグループによるアニマルセラピーは、ご利用者・ご家族ともに大変喜んで頂いております。

食事は管理栄養士が作成した業者メニューを提供しています。
職員手作りにて、利用者の皆様美味しい召し上がって頂いています。
ご利用者の食形態に応じた料理（普通食・一口大・刻み・極刻み・ソフト食）等が可能です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年9月25日	評価機関評価決定日	令和7年10月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇毎月の職場30分研修の内容が充実

・短時間の研修に日常運営課題の他、事故防止対策、倫理・法令の遵守、各種ハラスメント防止、感染症や災害時のBCPなど、内容が充実している。

・研修後、当番職員自身が研修内容の報告書を作成し回覧している。研修内容を自己研鑽し、容易かつ簡潔にまとめ、管理者の確認を得ている。

◇四季の行事や毎月のレクリエーションを楽しむ

・正月、母の日、父の日、七夕祭りなどの四季の行事や一人ひとりの誕生日会などでは会場の飾り付けを行い、ケーキやお菓子などで祝っている。また、毎月の食事レクでは、利用者も焼きそばや流しソーセンなどを調理をしている。

◇職員が考えた事業所理念を原点に活動

・昨年、職員が皆で話し合って作成した事業所理念「第二の我が家」を大切にし、理念に沿った家庭的な温かみのあるケアを心がけている。

【事業所が工夫している点】

◇利用者と職員の意見を反映した手作り食事

・朝食と昼食の手作りの食事に加え、職員や利用者の意見等を反映して夕食も手作りに変更している。

・利用者からは、自分の好みの味付けや食べたい量を選べて食事を楽しむことができると歓迎され好評を得ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ横浜岸谷
ユニット名	サルビア壹番館

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目 : 36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通りの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は常に話し合い、全員で定めた目標をサービスに反映している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所理念は、職員の意見を反映したことで、日常のケアに疑問があれば職員自らが理念に戻る身近な存在となっている。 ・職員は、事業所理念「第二の我が家」を大切にし、家庭的な温かみのあるケアを心がけている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも落ち着き少しづつ地域交流も増えてきた。今後も運営推進会議によって意見交換し交流の場に参加していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入し、自治会館のお茶会等の催しに参加している。 ・事業所の前を練り歩く自治会の神輿を皆で見学し声援している。 ・アニマルセラピーのボランティアの訪問が年数回あり、利用者は様々な犬との触れ合いを愉しんでいる。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談会を開くことで認知症に関する理解を深めていただく。 地域住民の方が、気軽に立ち寄ることができる施設を目指す。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回自治会長・ケアプラザ職員・民生委員当施設職員の参加で開催し、要望などを共有しサービスの向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は年6回開催している。参加者から生活の様子や活動を知りたいとの要望に、ホームページのミモザ日記を紹介している。 ・事業所の活動を理解してもらう一つの方法として自治会掲示板の利用を依頼している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鶴見区のグループホーム連絡会や研修会に参加して、サービスの向上に努めるとともに、不明な点は介護保険課に都度確認している。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の生活保護担当者が現況活動で来訪している。介護保険課とは必要に応じて相談等できている。 ・東部グループホーム連絡会や地域包括支援センターの研修会に参加している。包括支援センターとは様々な相談等で連携している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、委員会も作っている。3か月に1回はミーティングを行うことで職員は意識して行動する環境を作り取り組んでいる。	・身体拘束適正化委員会を年4回開催している。 ・職場30分研修で、年2回身体拘束適正化指針やマニュアルを読み合せ、理解を深めている。 ・委員会や研修の議事録を作成し全職員に回覧で周知している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用契約書・重要事項説明書に明記。虐待・拘束の厳禁を職員に徹底するとともに、委員会を作り虐待防止の研修を行っている。	・虐待防止マニュアルを基に虐待防止の職場30分研修を年2回実施している。 ・虐待防止委員会では、スピーチロック、投薬の適正管理等を予防的な視点で確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利事業や成年後見人制度についての研修に参加し、職員内で内容の共有化を図り意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明し納得・安心して頂いたうえで契約している。また改定した際にも説明し納得して頂いたうえで同意書を記入して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で状態などを都度お伝えしている。施設での生活の中で、ご利用者やご家族と職員が信頼関係構築しそれぞれ自由な意見交換が出来るような環境づくりに努めている。	・家族の面会時が運営に関する意見等を聞く機会と捉え、声掛けに努めている。事業所から家族への電話の際も意見等を聞いている。 ・家族からは薬の出し方や量の調整などの意見がある。意見等は申し送りノートに記録し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎日の申し送り、連絡ノートを活用し情報共有を行っているので常に意見交換は行われている。	<ul style="list-style-type: none"> 管理者も職員と一緒にケアに参加しており、日常的な課題や話題は共有している。ケアの方法の意見があればその場で改善し、毎月のスタッフ会議で共有している。 職員や利用者からの提案により、夕食を手作りに変更している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実態については代表者は毎月把握しており、職員から出される要望についても検討したうえで回答している。	<ul style="list-style-type: none"> 運営法人が給与体系、就業規則等を整備している。 認知症初任者研修等の資格取得に際し受講費等を負担し、資格取得後は給与に反映している。 職員健康診断は、夜勤者年2回、日勤者は年1回行っている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が計画的に研修を受けられるよう体制を整えている。 社内研修情報を職員に伝え受講を勧めている。	<ul style="list-style-type: none"> 管理者業務の一部を職員が担当するアロー制度を設置するなど、職員のステップアップを支援している。 新採用職員には、事業所で3か月間のOJT期間を設けている。 毎月の職場30分研修の報告書作成で職員が自己研鑽している。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他グループホームと意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より利用者が持っている疑問や不安を直接面談しており、これからの方の要望等具体的に聞いています。傾聴と受容の姿勢を忘れずに信頼関係を築くように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂くことを勧め、家族の困っていること・心配している事疑問に思っている事を直接お伺いし、必要な情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今困っている事やこれからどうしていきたいか等を聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極めて助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、各利用者の出来る事・出来ない事を探りながら、どんなことでも目標を持って取り組むようにして頂いている。それらができたときは職員とともに喜びを分かちあっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの不安がある為、ご家族の参加は控えて行事を行っている。面会に関しては現在大きな縛りを設けていない為、お好きなタイミングで来設して頂いている。その際に報告させていただいている。写真は郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人との交流が出来るよう訪問を歓迎している。又電話でも会話できるようにしている。	・入居時に利用者の馴染みの関係を確認している。友人等の面会は事前に家族の了解を得ている。 ・友人との手紙や年賀状等は、要望があれば支援している。 ・利用者と家族等との電話連絡の際は事業所の電話を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず交流できるように職員が配慮している。利用者の性格や人間関係を把握し食席の配置を決めたりお手伝いをお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した、ご利用者や利用者の家族でもいつでも相談に来ていただけるようお話している。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から、各利用者の思いや要望を把握するようにしている。聞き取り困難な利用者に関しては、家族の意向からくみ取り話し合いを行っている。	・入居時に利用者の思いや意向を把握し、入居後は、利用者の日常会話や仕草で把握している。 ・把握した思いや意向は申し送りノートで共有している。また、事業所アイパッドを利用した申し送りも活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・利用者の家族から生活歴や今までの暮らしぶりを伺い、個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を把握して、ひとりひとりの過ごし方を共に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の出来る事出来ないことを見極め、月に1回カンファレンスを行っている。	・介護計画は、長期1年、短期6か月の有効期間としている。状況の変化で都度見直しをしている。 ・毎月モニタリングで医師や職員等の意見を聞き、カンファレンスを開きケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は個人別に記録し全職員が情報を共有しながらケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域ボランティアを受け入れて支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が月2回往診にきて、ご利用者の健康状態等を把握している。ご家族の希望も尊重している。	・利用者全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。協力医は24時間オーコール対応し、臨時の往診もしている。 ・看護師は週1回、歯科医は月1回訪問している。マッサージを受ける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1利用者の健康状態を見ている。看護師とは気軽に相談できる信頼関係を築いており、柔軟な対応をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を密に、早期退院に向けて情報交換や相談に努め支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアに関しての対応は、本人・家族・事業所の意向を共有し支援出来るよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 重度化と看取りに関する指針を入居時に説明し、同意を得ている。重度化した場合、医師と家族、管理者で話し合い、方針を決めている。 看取りの研修では、資料をもとに注意事項等を確認している。 居室に泊って看取る家族もいる。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	緊急時用マニュアルを準備しており、応急処置や初期対応について研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練や職員による消火器の取り扱い訓練を行っている。非常時近隣職員の応援体制も整っている。	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を年2回(1回は夜間想定)実施し、消防署の指導で通報訓練や消火器訓練を行っている。 BCP訓練を自然災害と感染症で実施し、策定したBCPの有効性を確認している。 粥や缶詰を3日分備蓄している。 	<ul style="list-style-type: none"> 賞味期限を記載した災害備蓄品リストを作成し、避難訓練時など定期的にチェックすることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるため日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、契約時「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。職員は自尊心を大事にした言葉かけを心がけている。	・職員は利用者の言動を否定しないようしている。特に「ダメ」という言葉に多くの利用者が反応するので、使わないよう注意している。 ・トイレや浴場、居室のドアは、プライバシーの保護により閉めるが、見守りのため少しだけ開けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の過ごし方や自分の思いを表せるように働きかけ、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ・お茶の時間は決まっていますが、その他の時間はご利用者の希望やペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。 2か月に1回訪問理美容に来ていただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には下ごしらえやお米ときを手伝ってもらっている。 食事レクの際には職員と共に調理して頂いている。	・3食の献立と食材は業者に委託し職員が調理している。利用者はお盆拭きや盛り付け等に参加している。 ・イベント食を月に1度実施し、利用者も野菜を切ったり鉄板で炒めたりしている。流しそうめんや外食などでも利用者を楽しませている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録をしてる。毎日の食事で一人一人の食事量や食事形態を把握し、利用者に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。問題があれば訪問歯科に相談して対応している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛け誘導している。問題があればその都度カンファレンスを行う。	・車いすの利用者もつかまり立ちができるよう、脚力が弱くなったときは脚力強化をマッサージに要請している。実際に効果が出て、トイレでの排泄が続けられている。 ・病院から戻った時のリハビリパンツから布パンツへの改善例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態の確認を行っている。便の状態に合わせて下剤の管理をしている。身体を動かしたり、食事・水分を摂取して頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には午前中に入浴を行っているが、利用者一人一人のタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯等季節の行事を大切にしている。	・入浴は週2回を基本とし、利用者の希望により柔軟に対応している。利用者の状況により機械浴やシャワー浴にしている。 ・利用者は、職員と昔話をするなど、入浴をゆっくり楽しんでいる。 ・同性介助の要望に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安により休めない時には職員が話し相手になり安心していただく。適度な温度で過ごせるように冷暖房を使い温度を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々に使用している薬について把握し、薬の目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じてその方にあったレクリエーションの提供をしている。誕生日会は必ず行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外気浴や施設の周りを散歩している。外食レクも行っている。	・日々の外気浴や散歩の他、外出レクリエーションで總持寺や近隣の公園での花見や、近くの神社での初詣などを支援している。 ・敷地内の花壇にあじさいやひまわり、コスモスを植え、利用者が水やりや草取りを手伝っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時ご家族と相談して買い物が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話にて家族や知人からの電話の取次ぎを行っている。手紙やがきも自由にやり取りできるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでテレビを見たり、談笑したりと自由に過ごせる空間にしている。清潔感を意識し季節感ある装飾をしている。	・リビングの掃除とアルコール消毒は職員が毎日行っている。 ・利用者の折り紙や塗り絵を使って季節を感じさせる飾りを毎月作成している。 ・食事中は静かに食事できるよう、テレビを消してBGMを流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを置き普段とは違った場所で、気軽に座ってくつろいで頂いている。利用者孤立せず思い思いの時間を過ごせるように食席等に配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物をお持ち頂き自宅と同じような空間になるように配慮している。	・居室にはエアコンやクローゼット、介護ベッドを備え付けている。ベッドの位置や方向は、使い易いよう職員と利用者で決めている。 ・利用者はタンスやテレビ、家族や趣味の写真などを持ち込んでいる。 ・家族了解のもと、必要に応じて立ち上がりセンサーを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを意識した建物で、手すりの設置、車いすでも使用しやすい様に工夫されている。各居室には介護用ベットが設置されており利用者が起きしやすい様に配慮している。		

事業所名	ミモザ横浜岸谷
ユニット名	サルビア式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目 : 36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通りの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しづつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は常に話し合い、全員で定めた目標をサービスに反映している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも落ち着き少しづつ地域交流も増えてきた。今後も運営推進会議によって意見交換し交流の場に参加していく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談会を開くことで認知症に関する理解を深めていただく。 地域住民の方が、気軽に立ち寄ることができる施設を目指す。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回自治会長・ケアプラザ職員・民生委員当施設職員の参加で開催し、要望などを共有しサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鶴見区のグループホーム連絡会や研修会に参加して、サービスの向上に努めるとともに、不明な点は介護保険課に都度確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、委員会も作っている。3か月に1回はミーティングを行うことで職員は意識して行動する環境を作り取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用契約書・重要事項説明書に明記。虐待・拘束の厳禁を職員に徹底するとともに、委員会を作り虐待防止の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利事業や成年後見人制度についての研修に参加し、職員内で内容の共有化を図り意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明し納得・安心して頂いたうえで契約している。また改定した際にも説明し納得して頂いたうえで同意書を記入して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で状態などを都度お伝えしている。 施設での生活の中で、ご利用者やご家族と職員が信頼関係構築しそれぞれ自由な意見交換が出来るような環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎日の申し送り、連絡ノートを活用し情報共有を行っているので常に意見交換は行われている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実態については代表者は毎月把握しており、職員から出される要望についても検討したうえで回答している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が計画的に研修を受けられるよう体制を整えている。社内研修情報を職員に伝え受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他グループホームと意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より利用者が持っている疑問や不安を直接面談しており、これからの方の要望等具体的に聞いています。傾聴と受容の姿勢を忘れずに信頼関係を築くように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂くことを勧め、家族の困っていること・心配している事疑問に思っている事を直接お伺いし、必要な情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今困っている事やこれからどうしていきたいか等を聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極めて助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、各利用者の出来る事・出来ない事を探りながら、どんなことでも目標を持って取り組むようにして頂いている。それらができたときは職員とともに喜びを分かちあっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの不安がある為、ご家族の参加は控えて行事を行っている。面会に関しては現在大きな縛りを設けていない為、お好きなタイミングで来設して頂いている。その際に報告させていただいている。写真は郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人との交流が出来るよう訪問を歓迎している。又電話でも会話できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず交流できるように職員が配慮している。利用者の性格や人間関係を把握し食席の配置を決めたりお手伝いをお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した、ご利用者や利用者の家族でもいつでも相談に来ていただけるようお話している。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から、各利用者の思いや要望を把握するようにしている。聞き取り困難な利用者に関しては、家族の意向からくみ取り話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・利用者の家族から生活歴や今までの暮らしぶりを伺い、個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を把握して、ひとりひとりの過ごし方を共に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の出来る事出来ないことを見極め、月に1回カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は個人別に記録し全職員が情報を共有しながらケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域ボランティアを受け入れて支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が月2回往診にきて、ご利用者の健康状態等を把握している。 ご家族の希望も尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1利用者の健康状態を見ている。看護師とは気軽に相談できる信頼関係を築いており、柔軟な対応をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を密に、早期退院に向けて情報交換や相談に努め支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアに関しての対応は、本人・家族・事業所の意向を共有し支援出来るよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	緊急時用マニュアルを準備しており、応急処置や初期対応について研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練や職員による消火器の取り扱い訓練を行っている。非常時近隣職員の応援体制も整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるため日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、契約時「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。職員は自尊心を大事にした言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の過ごし方や自分の思いを表せるように働きかけ、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ・お茶の時間は決まっていますが、その他の時間はご利用者の希望やペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。 2か月に1回訪問理美容に来ていただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には下ごしらえやお米とぎを手伝ってもらっている。 食事レクの際には職員と共に調理して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録をしてる。毎日の食事で一人一人の食事量や食事形態を把握し、利用者に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。問題があれば訪問歯科に相談して対応している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛け誘導している。問題があればその都度カンファレンスを行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態の確認を行っている。便の状態に合わせて下剤の管理をしている。身体を動かしたり、食事・水分を摂取して頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には午前中に入浴を行っているが、利用者一人一人のタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯等季節の行事を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安により休めない時には職員が話し相手になり安心していただく。適度な温度で過ごせるように冷暖房を使い温度を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々に使用している薬について把握し、薬の目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じてその方にあったレクリエーションの提供をしている。誕生日会は必ず行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外気浴や施設の周りを散歩している。外食レクも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時ご家族と相談して買い物が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話にて家族や知人からの電話の取次ぎを行っている。手紙やはがきも自由にやり取りできるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでテレビを見たり、談笑したりと自由に過ごせる空間にしている。清潔感を意識し季節感ある装飾をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを置き普段とは違った場所で、気軽に座ってくつろいで頂いている。利用者孤立せず思い思いの時間を過ごせるように食席等に配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物をお持ち頂き自宅と同じような空間になるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを意識した建物で、手すりの設置、車いすでも使用しやすい様に工夫されている。各居室には介護用ベットが設置されており利用者が寝起きしやすい様に配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ横浜岸谷

作成日

令和 7 年 10月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	29	地域資源との協働	運営推進会議は定期開催できるようになっているが、ボランティアをもう少し充実させたい。	地域で行われているボランティア団体のピックアップ及び料金の確認。対応可能な場合は取り入れる。	6ヶ月
2	35	防災資源の確保・確認	備蓄品の確保及び避難訓練時など定期的にチェックする	賞味期限を記載した災害備蓄品リストを作成	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。